

## 令和4年10月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

10月は、新型コロナウイルスの感染者数が落ち着きを見せ、「全国旅行支援」等の行政の景気刺激策もあり消費需要が増加したことから、関連する業種において売上・受注は好転している。

一方、物価、原材料費、電気料金の高騰はあらゆる業種の経営負担となっており、相次ぐ仕入れコストの上昇に価格転嫁が追い付かず収益を圧迫していることから、景況DI値は横這いとなっている。

今後も、原材料費等の高騰は続く見込まれ、また、人手不足やコロナ再拡大への懸念もあり、先行き不透明感への不安が続いている。

### 山口県の主要指標 DI 値（令和4年10月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	( < 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 > )
	前年同月比は、好転：3.8% 悪化：37.5% DI 値：▲33.7% ポイント
売上高	( < 増加 > - < 減少 > = < DI 値 > )
	前年同月比は、増加：18.8% 減少：25.0% DI 値：▲6.2% ポイント
収益状況	( < 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 > )
	前年同月比は、好転：5.0% 悪化：41.3% DI 値：▲36.3% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和4年10月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲75.0	▲50.0	▲66.7	▲50.0	▲33.3	0.0	0.0	▲37.5
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
▲40.0	▲62.5	▲40.0	▲0.0	▲36.4	▲28.6	0.0	▲31.2
							

全 体
▲33.7


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	「全国旅行支援」が始まり、登録店舗では利用者が増加しているものの、依然としてコロナ前の売上には戻っていない状況。反動はどうなるのかと、既に年末年始を不安視する声もある。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	電気・ガスの高騰が続き、収益を圧迫している。	パン・菓子製造業 下関市
	海の環境変化で水産加工原料の水揚げ減少が続いており、また、漁師の廃業も多い。最低賃金アップと加工の人手不足で人件費が高騰している。	水産食料品製造業 長門市
	コロナ禍での業況だが、冬季が繁忙期の企業が多いため、忙しくなっている模様。入国制限が緩和され外国人技能実習生の入国が始まり生産量等の回復は見込めるが、最低賃金の大幅な引き上げがどう収益に影響するか注視している。コロナも落ち着き、市場の動きは止まっていないので売上に関しては少し回復している模様だが、円安や材料・資材の高騰で利益的には厳しくなっていると思われる。	水産食料品製造業 下関市
	流通停滞を見越して在庫を揃えた為、材料等の在庫過多ではあるが、需要が増えてきた分、売上も10%増加した。半期を過ぎ、補助金のお陰で何とか利益が保っている状況で、補助金、助成金、支援金等に頼らず本業だけで利益が確保できないものかと思っている。	食料品製造業
	コロナウイルス感染も縮小傾向、飲食店等もほぼ通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。原油価格の大幅な上昇とウクライナ情勢による原材料不足等で、製造原価他コストが上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。9月初旬に大型台風が上陸し、米の一部品種が倒伏し収穫量が減少している。ロシアがウクライナに侵攻し7ヶ月が経過したが、全く終息する気配は無く、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。また、ウクライナは世界有数の穀倉地帯でもあるので、食料不足に伴う穀物価格も上昇している。政府の、原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、更なる対策費の上乗せと食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要と思う。	精穀・製粉業
繊維工業	円安などによる更なるコストアップが気になる。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	組合の活動は皆無。「土地があれば新築工事もあるが、現状はリフォーム工事が少々あるだけ。」と建築業者は話す。	製材業・木製品製造業 岩国市
	当組合のコロナウイルスによる影響が出始めた時期は令和2年4月以降である。組合員の平均売上額は、コロナ前の令和元年10月に比べ20%の減少、コロナ禍の令和3年10月と比べ10%の増加だが、増加傾向の事業所と依然減少が続く事業所とが混在している。売上は対前年比で僅かに増加傾向ではあるものの、景気の上向きは感じられない。木材価格は先月に比べると落ち着いてきている。ウッドショックの反動として、住宅着工数の減少により、高値で仕入れた在庫がだぶつき価格が下落している。	製材業・木製品製造業 下関市

印刷	10月前半はある程度売上も上がったが、後半になると工場の稼働率がぐっと減り、従業員も手隙な状態が続いた。	印刷業 山口市
	「全国旅行支援」や各自治体による様々な割引クーポン等の経済政策が実施され、コロナにより低迷を余儀なくされてきた観光業界も活気を取り戻している。海外旅行者の検疫緩和によりインバウンド需要の復活も期待できる。しかし、印刷業界では受注増加の実感はなく、売上も前年比横ばいの状況である。原材料の高騰は続いており、ロシア、ウクライナ情勢によるエネルギー問題や新種のコロナウイルスの発生等、懸案事項は尽きない。設備産業である印刷業が、設備投資を積極的に行えない状況の中で、每期経常に利益を確保していくのは非常に困難な時代である。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	10月より原材料のセメント、砕石、砂が値上げされ、その他材料も毎月値上げがある。当組合は令和3年11月に約10%値上げをしたが、現在の状況はそれ以上にコストがUPしており、値上げに向けて価格調整をしている。	コンクリート製品製造業 防府市
	10月に入りセメントの値上げが一斉に行われている。1トン当たり3千円の値上げにより現在の設定価格より5%程度の値上げをしないと採算が合わないが、4ヶ月前からの運賃、鋼材の価格転嫁もできていない状況で憤りを感じている。引き続き値上げの説明を継続して行うよう組合内で話している。	コンクリート製品製造業 柳井市
	出荷量は、前月比112%、前年同月比95%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は県内で上昇傾向である。	生コンクリート製造業
	燃料価格の上昇につき、墓石の撤去・処分費用を上げざるを得ない状況になってきている。撤去後の墓石(産業廃棄物)については、業者へ処分依頼をしなければならず、業者の処分費も上がってきている。	石工品製造業
	10月の売上高は、小売は前年比で10%程度アップ。観光客が増加し「萩市の観光クーポン」利用者も多く、「全国旅行支援」の影響とみられる。卸売も好調で10%アップとなった。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	9月に続き10月も、周南地域コンビナートの大型の定修時期で、当組合員企業も例年通り、9月から続いて繁忙期を迎えているところが多い模様。従来通り仕事量は多くて良いのだが、人材不足が深刻になっていることを、この次期に特に感じている。	一般機械器具製造業 下松市
	受注は、コロナ禍で保留されたのか、令和5年8月までの生産力7~8割程度の受注内示が既にあり、好調な状況だが、価格の据置きで収益が出る状況にはない。取引先は中近東他で、ロシア関係は消滅し、今後は北米が活発になるかと思う。購入品の納期改善は無く、受注出来ないことや、得意先への納期調整の苦労が続いている。人手不足は全く解消されず、親会社の定期修理工事も外注業者の応援により増員して対応しているが、11月半ばに終了するので、その後が不安である。求人は、熟練工のみを続け、新卒求人は出していない。残業は、無理の無い協定の範囲とし、ほとんど無くなった。更に円安のため外国人の受け入れも難しくなるのではないかと心配している。	一般機械器具製造業 防府市

	<p>日本経済は、中国のゼロコロナ政策も大きな影響はなく、新型コロナウイルスとの共存政策の進展により回復基調にある。サプライチェーンの国内回帰もあり安定してきたが、中国経済発展の減速が、どの程度まで影響が出るか予断を許さない。急激な円安、ロシアのウクライナ侵攻に伴う資源高、資源不足が大きく経済に影響を及ぼしており、特に電気、ガス料金のアップは影響が大きく経営の負担となっている。外国人の人材確保は、順調に動き出しているが、日本の低賃金、急激な円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾、韓国との人材確保競争は厳しい状況。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、募集しても人が集まりにくい状況である。</p> <p>大きな変化は見られないが、景気高揚の期待感を持っている。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
輸送機器	鉄道車両関係は順調に推移している。半導体は、例年の2~3倍の受注量で引き続き好調に推移の見通し。従業員確保に苦労している。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	倉庫売上は前年同月比でやや減少している。例年に比べカキ等海産物の出庫が多く、在庫が減少しているので、流通は順調の様相である。10月も電気料金の高騰により40万円増加の厳しい状況である。少しでも補填できるよう、9月より自家発電用のソーラー発電を開始した。	乾物卸売業
	引き続きコロナ禍の状況ではあるが、各種規制が緩和されたことにより売上が増加している。	各種商品卸売業 山口市
小売業	寒くなるにつれてクリームなどの高額商品が出始めるが、光熱費や食料品等の値上げに伴い、化粧品のパッケージ単価が下がってきている模様。販売店やデベロッパのポイント倍率等のお得な時期に購入する傾向が顕著で、売り上げても販促費が上がり利益率が下がっている状態である。地域限定のお得な券も終了しており、新商品や施術等で集客を上げる必要がある。	化粧品小売業
	10月も家電の売上は低迷。夏商品の在庫調整で年末商戦に向けて準備中。前年比95%位である。	機械器具小売業
	売上は、前年同月比53.9%の減少。事業一部が廃止となったため、大幅に売上減少となった。	各種商品小売業 周南市
	9月は台風による臨時休館があり前年同月より2営業日ほど減少したものの、売上は対前年同月比+1.6%と前年並みを維持しており、県民割、やまぐち食事券等の市や県が発行するクーポンが11.5%を占めている。また、現金・キャッシュレスの売上のみを前年同月と比較すると2.2%減少している。10月の売上は、「全国旅行支援」による観光需要増加により前年同月比10%程度増加しているが、経費面の商品仕入価格、電気代等が大幅に上昇し、収益は厳しい状況である。	各種商品小売業 萩市
10月の供給高は前年比102.5%、来店者数97.5%。10月は組合で誕生祭(10/1~10/10)を行い、その週の供給高は前年比110%であった。10月末で下関市地域振興券の使用期限が終了する。店舗でのワーカの募集をしているが、応募がない。	各種商品小売業 下関市	

商店街	<p>コロナが一段落したかと思うと空前絶後の物価高騰で、飲食店だけでなく、小売業を含む全業種と人々の暮らしを直撃している。1月に1缶 2,000 円であった揚げ油が今は 6,500 円となり、これほど急激な値上げには対応不可能な状況である。消費者も収入が上がらずエンゲル係数だけが高騰している。そんな中で岩国祭が再開され、市議会議員選挙もあった。市街地候補が軒並み得票数を落とし、山間部候補が上位独占したが、有権者の「市街地へ対する興味・関心の薄れ」と思われ、駅前活性化は再び喫緊の課題である。</p>	岩国市
	<p>恒例の秋のイベントも復活し始め、人流も増えつつあり、今後に期待しているが、物価の上昇と若干のコロナの増加が心配である。</p>	宇部市
	<p>「コロナ前でも売上は減少していたのに、新型コロナウイルスの影響で一段と悪化しており、貯金を取り崩して生活をしている状態。」と陶器店の店主は話す。陶器の業界全体でも営業は悪化した状態のままの模様である。商店街もほぼコロナ前の通常状態に戻ってきているが、良い話は聞かない。</p>	萩市
	<p>「時代祭り」の開催で街が賑わった。11月にはプレミアム商品券の販売を控えているが、問い合わせも多く、昨年同様の長蛇の列に期待している。</p>	下関市
サービス業	<p>売上は徐々に良くなりつつあるが、物価高騰により価格転嫁する店舗も見られる。</p>	理容業
	<p>自動車整備業界に大きな影響を与えると思われる自動車検査証の電子化が、2ヶ月後に迫ってきた。当面は、車検時期に旧自動車検査証を電子検査証に交換していくことになり、実際に全ての車が電子化されるには3年間が必要となるが、移行後は、特に指定整備工場（民間車検場）では電子検査証に変わった車の車検に関して、有効期間更新のためわざわざ運輸支局窓口に出向く必要がなくなることから、業務に集中できるなど経営的にも大きなメリットとなることが予想される。半面、当組合では商品等購入のための来訪する事業場が減少することが考えられ、売り上げが減少するのではないかと、当組合としてはデメリット部分を心配をしている。</p>	自動車整備業
	<p>新型コロナウイルスが落ち着いてくれたら回復が見込めると思っていたが、光熱費の価格上昇が痛い。今期の会員入会のタイミングは過ぎたので、今後は来期に向けて計画を立てていく。</p>	スポーツ・健康教授業
	<p>今年は秋の衣替え繁忙期が少し早めに始まったが、組合員の多くは材料や人件費の高騰により利益が薄くなっている。物価の上昇により消費行動も落ち、売上に影響が出ることが気掛かりである。</p>	普通洗濯業
	<p>湯田温泉全体的に活気が戻ってきた模様。団体予約も入るようになったが、まだまだ油断せず状況を見極めていきたい。</p>	飲食業
	<p>「全国旅行支援」が始まって、忙しくなった模様。</p>	旅行業
	<p>売上、宿泊人員とも県民割等の施策により前年同月比は大幅増となったが、コロナ前 2019 年の同月比で 95.7%、宿泊人員は 96.9%と下回った。2019 年か</p>	旅館業 山口市

	ら、2施設減少したことを考慮すると、売上・宿泊人員ともコロナ前の数値に戻ってきた。	
	土曜、日曜、祝日は満室。「全国旅行支援」の「旅々やまぐち割プラス」が始まり、平日もほぼ満室で、行政の後押しに感謝しているが、準備期間が短く、また、人手不足もあり、フロントが手間をとっている。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請 151 件(当支部 141 件)、前年同月 187 件(同 163 件)。太陽光発電への申請 48 件(前年 43 件)、オール電化申請 71 件(前年 52 件)。LED 街路灯への切り替え・新設申請 20 件(前年 14 件)であった。	電気工事業
	官庁工事を中心に、土曜日の現場閉所が増加している。技能者に対して日給で給与支払する事業所が多く、欠勤日数増加による補填負担が重い。	左官業
	10月の官公需も順調な入札数であった模様。民需の住宅関連の発注はやや増加。依然として人手不足は解消できていないが、組合員間で協力しながら仕事を行っている。	管工事業
	公共事業の発注は、例年並みのペースで特に問題はないものの、燃料費の高止まり、原材料費の高騰が続いており、利益率が圧縮されている。コロナ変異株も見られ、未だ収束には至らず、明るい見通しは少ない。	一般土木工事業 柳井市
	10月の受注高は、対前年同月比 178.0%。令和4年度の累計では、対前年比 85.5%である。5月発注分は河川関連が多く、10月末から取り掛かるものが多い。9月から割りと大きな案件の発注があるが、繰越となる場合が多い。平準化にならない。	一般土木工事業 萩市
	予算は例年通りと聞いているが、上半期の長門地区公共事業受注高は、例年の約 5 割と非常に少なく、第3四半期の早期発注を望む。燃料費、生コンクリート、アスファルト、鋼材、木材等の建設資材単価が高騰しており、収益への影響が心配される。	一般土木工事業 長門市
	瓦の仕入れ価格が上昇している。新築着工物件において、屋根材として瓦以外の採用が増加している。これらの事由により業界の先行きが見通せない状況である。	屋根工事業
	図面決定の遅れで思うように加工生産が伸びず、工場稼働率が低下しており、同業他社の手伝い等で仕事量を確保している。資材高騰による工事費アップのため、工事案件の決定に遅れが出る場合や中止・延期になるケースも散見され、相変わらず見積物件も少ない様子で先行き不透明である。	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	輸送関係は輸出向けが対前年比 0.8%弱の減少、国内向けは中近距離輸送が多く、割に合わない状況である。燃料費は僅かに値下げとなったが、輸送量が減少しているため、中小輸送業者にはプラスとはならない。軽油引取税を考慮してほしいとの声が多い。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関連の組合輸送取扱高は前年比 17%程度の増加だが、コロナ不況前の水準には遠く及ばず 75%程度の取扱い状況。燃料費は幾分落ち着きを見せ前年比 2.2%、前々年比では 41%の値上がりである。	一般貨物自動車運送業 防府市
	運送に関しては、軽油の値上がりが大きく収益に影響を与えている。軽油以外にも資材や備品等多くの物が値上がりしており、影響は大きい。輸送量・保管に関しては増加が続いている。特に製造業の稼働率が上がっている模様。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+34.5%（令和4年9月1日～令和4年10月20日分）だった。9月1日～30日分は+52.8%、10月1日～20日分は+12.1%。前々年度比では、それぞれ▲0.0%、+4.1%、▲6.2%になった。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。9月分については、周南+52.2%、下松+83.8%、光+47.8%、防府市地区は+64.3%で、組合員の全域では+59.1%、地区外（員外）+8.4%、合計+52.8%(+4,254千円)だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPは減少した。（前月645.0\$/トンが今月595.0\$/トン、前年812.5\$/トン）、フレート（輸送）コストは増加（前月9,400円/トンが今月10,000円/トン）。為替は円安（前月136.24円/\$が144.09円/\$）。燃料単価は前月より▲1.1%下がり、前年10月比▲4.3%で前年10月から高騰したこともあり、少し落ち着いてきたように思われる。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>10月は取扱高が減少した。今後暫く減少傾向が続くと思われる。</p>	<p>港湾運送業</p>
	<p>外国人技能実習生受入に関しての進捗は無く現状停止したままで、受入れ企業も進められずにいる状況。新型コロナウイルスも落ち着いてきたが、依然として面会禁止や介護支援専門員の訪問が出来ない施設や病院がある。入国制限の解除により、入国の目処は立ちやすくなったと考えられるが、反面で景気が悪化、特に様々な物品の値上がりにより企業自体も経営が困難となってきている。即戦力に成り辛い外国人技能実習生より年配者でも日本人の採用を希望しているように感じる。</p>	<p>介護事業</p>